

大長 学長
新長 谷川

選考の正当性強調

新長 谷川

2期目へ 学内改革に意欲

二月から二期目の任期に入る新潟大の長谷川彰学長は三十一日、新潟日報社のインタビューに応じ、学長選挙をめぐる混乱が法廷での争いにまで発展したことについて「(身内の教授に)訴えられたのは残念だが、選

考は法廷のちより適正に行われた」と主張、学内の理解を求めながら大学改革に努めたいと述べた。

長谷川学長の任期満了に伴う学長選びで、同学長は教職員による第二次意向投票では二位にとど

まった。しかし理事らで構成する「学長選考会議」が同学長を次期候補に決定したことから批判が噴出。同大教授七人が大学を相手取って決定の無効確認を求める訴訟を起した。

こうした経緯について同学長は「係争中であり、学長選考会議は独立した組織。言う立場にないが、『説明不十分』という指摘があれば、それは同会議の責任で改善することだろう」とした。

教職員による意向投票結果については、目指している大学改革の内容ではなく、「説明不足への批判票ではないか」と分析。近くメールマガジン

を開設し、改革の趣旨や状況を全職員に配信していくと述べた。

研究費の減額や人事面での不満が表れたとする異方があることには「大

学が新しく生まれ変わるためには、痛みを伴う覚悟がある」と強調。一方で外部研究費の獲得努力

や新分野への重点投資が必要だとした。

二期目の重点改革課題としては教養科目と専門科目が融合した新学士課程教育の確立を挙げ、「変化の大きい社会をたくましく生き抜く学生を育て、全国トップレベルの評価を得られる新ブランドを築きたい」と語った。



「社会との連携を進めていきたい」と語る長谷川彰学長。31日、新潟大。